令和5年司法試験の結果について

九州大学法科大学院長　山下　昇

令和5年１１月８日、令和5年司法試験の結果が発表されました。

本学の修了生22名が合格いたしました。詳細は以下の通りです（括弧内の数字は全国の順位です）。

項目	全国	本学
○受験者数	3575名	94名
そのうちの既修者の数	2511名	62名
そのうちの未修者の数	1064名	32名
○最終合格者数	1454名	22名（21位 ）
そのうちの既修者の数	1248名	20名（20位 ）
そのうちの未修者の数	206名	2名（36位 ）
○最終合格率（最終合格者数／受験者数）	40.67%	23.40%（21位 ）
既修者	49.70%	32.26%（20位 ）
未修者	19.36%	6.25%（36位 ）
○法科大学院修了直後の者の最終合格率	55.04%	41.94%（19位）
既修者	62.82%	59.09%（14位）
未修者	31.43%	0.00%（25位）
○法科大学院課程修了資格者の最終合格率	32.61%	19.72%（25位）
既修者	41.93%	31.11%（19位）
未修者	16.21%	0.00%（37位）
○在学中受験資格者の最終合格率	59.53%	34.78%（21位）
既修者	63.31%	35.29%（20位）
未修者	37.58%	33.33%（12位）

令和5年司法試験における本法科大学院の最終合格者数は22名、最終合格率は23.40%でした（21位。全国平均は40.67%）。過去5年の本法科大学院の最終合格率の順位は、令和元年11位（33.90%）、令和2年9位（46.67%）、令和3年21位（29.31%）、令和4年12位（33.33%）であったところ、昨年やや改善しましたが、今年は昨年を大きく下回り、また、3年連続で全国平均を下回りました。そして、在学中受験資格者の司法試験受験が始まり、在学中の未修者2名、既修者6名が合格しましたが、合格率は全国平均を下回りました。今回の結果を大変厳しいものとして重く受け止めています。

課題の一つであった①未修者の合格率について、昨年は改善の傾向がありましたが、今年は修了生の合格者が0名となり、また、②2回目以降の受験者の合格者が既修者1名にとどまりました。さらに、③短答式試験合格率も3年連続で全国平均を下回っており、基礎力の定着も課題です。これらの課題の改善に向けて、引き続き取組を進めていく必要があります。一方で、既修者の修了後直後の合格率は、昨年に引き続き改善の傾向がみられましたが、なお全国平均をわずかに下回っており、④既修者の中間層の学力向上に努めていきます。

①③④の課題については、法律基本科目での基礎力定着と論述能力の涵養の取組を充実・徹底し、改善を図っていきます。②の課題の改善のため、修了生への対策を講じて、次年度以降、最終合格率の向上に向けた取組を継続していく所存です。